

知識探訪

多民族社会の横顔を読む
協力：日本マレーシア学会 (JAMS)

選挙とハッド刑と政界再編

中村正志 (日本貿易振興機構アジア経済研究所)

来年の早い時期に総選挙が行われるのでは、という噂がしばらく前から出回っている。下院の任期は 2018 年 6 月までだから選挙の日程を云々するのは時期尚早にも思えるが、そう遠くない時期に解散総選挙になると予想する人が少なくないようだ。

早期解散説の背景には、いま選挙が行われれば与党が有利との見方がある。その根拠は、6 月に実施された下院の補欠選挙だ。この選挙は与党・統一マレー人国民組織 (UMNO) の議員 2 人の事故死にともない実施されたものだが、2013 年の総選挙ではどちらもごく僅差での勝利だったため、与党にとっては必ずしも楽観視できる状況ではなかった。ただし、今回は実質的に UMNO 候補と野党・汎マレーシア・イスラーム党 (PAS) 候補の一騎打ちだったのに対し、今回は昨年 9 月に発足した国民信託党 (アmana) が加わり、二つの選挙区のどちらも UMNO と PAS、アmana の三つ巴の戦いになった。この違いが、UMNO にきわめて有利に働いた。アmana は、昨年 6 月の党役員選挙で敗れた PAS の進歩派幹部が結成した政党である。PAS が分裂したために、今回の選挙では野党支持票が二手に割れた。その結果、UMNO 自身の得票はさほど伸びなかったにもかかわらず、同党候補は 2 番手候補に大差をつけて勝利できた。マレーシアの選挙制度は小選挙区制のため、野党支持票が割れれば与党が俄然有利になるのだ。

野党は PAS が分裂しただけでなく、野党連合・人民連盟の枠組みが昨年 6 月に崩壊している。人民連盟は、2008 年選挙で躍進した民主行動党 (DAP) と人民公正党 (PKR)、PAS が旗揚げしたもので、以来、マレーシアの政治は人民連盟と与党連合・国民戦線の二大政党連合制を軸に展開してきた。この枠組みが崩れた原因は、ハッド刑 (イスラーム刑法) をめぐる PAS と DAP の対立である。

ハッド刑の実施は PAS にとって結党以来の目標である一方、華人が主体の DAP はそれに強く反対してきた。2008 年選挙から 2013 年選挙までの間、両者は宗教政策に関する志向性の相違を棚上げし、汚職撲滅や民主化など利害の一致する争点を前面に打ち出して共闘した。ところが、14 年 4 月に隣国ブルネイでハッド刑が施行されると、PAS が主導するクランタン州政府が同州におけるハッド刑施行に向けて動き出す。これが DAP との対立を招くとともに、PAS の内部に野党連携を重視する進歩派とウラマー (宗教指導者)

派との軋轢をもたらした。

PAS は DAP との対立を深める一方で、UMNO に接近する。PAS がハッド刑施行にむけた法的な準備を進めるのを、UMNO は陰に日向に支えてきた。それがはっきり表面化したのが、今年 5 月の下院での審議である。このとき、ハッド刑施行に向けた布石ともいわれる法案を PAS のハディ・アワン総裁が議員立法案として発議していた。議員立法案の優先順位は低いため、同法案は討議されることなく会期切れを迎えると見込まれていたが、政府は最終日に突然、この法案を優先的に討議すると決めた。結局、このときは審議入りしなかったが、この法案は今月 17 日に始まった会期での討議の対象になっている。

与党連合・国民戦線では、華人やインド人が主体の政党がハディの法案に強く反対しており、いまこれが討議に付せられれば与党側も混乱を避けられない。一方で、審議繰り延べを今後も繰り返すことになれば、PAS の側に UMNO に裏切られたとの認識が生まれてもおかしくない。そうなれば PAS は、他の野党との選挙協力に再び転じ、政策面での合意には至らずとも水面下で野党間の候補者一本化には応じるかもしれない。それは UMNO にとって大きな痛手となる。つまり UMNO は、PAS を落胆させることなくハディ法案に関する意思決定を先延ばしにするという課題に直面している。ハディ法案が今会期中に審議されるとすれば、それは来年度予算案可決後の 11 月 23 日ないし 24 日になる。そこでの政府・与党の対応が注目される。

< 筆者紹介 >

1968 年生まれ (東京都出身)。東京外国語大学外国語学部インドネシア・マレーシア語学科卒。東京大学大学院法学政治学研究科博士後期課程修了。博士 (法学)。主要著作：『パワーシェアリング 多民族国家マレーシアの経験』(東京大学出版会、2015 年)、『東南アジアの比較政治学』(編著。アジア経済研究所、2012 年)。